

学校教育目標		夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成				経営理念				○小中一貫校として、学校、家庭、地域が相互に連携協力の理念に基づき、「協調」と「信頼」で結ばれる教育環境を実現し、児童生徒の“育ちと学び”を支援していく。 ～児童生徒に軸足を据えた教育活動の展開～		
評価計画						自己評価				改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方策	
						10月	2月					
確かな学力(学習活動)	1	・学びに向かう力を整え、育てたい資質能力“推論する力”の育成を図る。 《新規》 地域伝統文化再生プロジェクト	・小中一貫教育・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。	・理科、英語、音楽、保健体育の準教科担任制の導入と総合的な学習でのTTを実施する。	・児童アンケート(授業満足度調査)を実施し、児童の満足度の割合を80%以上にする。	85%	95%	91%	107%	4	中学校教員が小学校に乗り入れることで、系統性を意識した指導を行うことができ、教科の興味・関心を高めることができた。また、小学校と中学校の教員が児童のことで連携する機会も増えた。中学校の教員が乗り入れ授業を行うことは、学力向上にもつながると感じている中学校教員も多い。	教科によっては、中学校教員の持ち時間数が増える。負担感を感じないよう、小学校教員やコミュニティスクール推進員と協力し合い、役割を分担しながらなる充実を図っていききたい。
			・学びを支える力として、基礎的・基本的学力の定着を図る。	・授業や家庭学習の充実を図り、学力向上の取組を行う。	・CRT(算数)もしくは習熟度テストにおいて、R4標準スコアを1.5ポイント上げる。	90%	小:1.5 中:2.0	0.5ポイント	50%	2	小学校CRT算数の標準スコアは、R4が51.61に対し、R5は50.17で下がっている。学年による差が見られる。中学校1月実施習熟度平均偏差値(数学) < 1年 > 51.0 < 2年 > 53.0 < 3年 > 52.0と全国平均値をいずれの学年も上回った。	CRT結果を分析し、課題のある内容を計画的に復習をする。また、R6は朝学習の方法や内容の見直しを行い、基礎学力向上を目指していききたい。 全教科で個人差が大きい傾向にある。個人差が小さくなるよう、授業づくりや個に応じた指導を行っていききたい。
			・学力向上のためのICT活用の推進を図る。	・ICT機器の利点を生かした活用をしていく。	・ICT機器の利点を生かした活用をしていく。	98%	小:98.2 中:95.7	97%	109%	4	小学校では身に付けるべき技能は直接経験で得られることを考え、3年生準備段階で活用を行った。教科の特性に応じて、ICTを効果的に活用することができた。また、児童・生徒、教職員にとっても、ICTは学習理解に効果的であると認識している。引き続き、ICTを学力向上のツールとして積極的・効果的に活用し、学力向上を図る取組を行っていききたい。	校種・学年・教科によって活用の差がある。校種・教科による活用を図る取組を進めていききたい。また、ICTの効果的な活用方法について、引き続き検討していききたい。
			・eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を育成する。	・発達段階に応じて、系統的かつ計画的にeSTEAM教育を推進する。	・一人一本人STEAM教育を取り入れた授業を実施する。	100%	100%	100%	100%	3	総合的な学習の時間を中心に、eSTEAM教育の実践を行った。各教員が実践を行うことで、eSTEAM教育の目指すところや推論する力を育成するための授業のあり方について方向性を見出すことができた。総合的な学習の時間以外の教科等での実践は、教科の特性上難しいものもあった。	志和中小中学校における「eSTEAM教育」をしっかりと共通理解を図り、カリキュラムの充実を図っていききたい。また、生活科・総合的な学習の時間以外でもeSTEAM教育の視点を取り入れた実践を探っていききたい。
豊かな(生徒指導や)な体	2	・自立・自律し、自他のことを大切にし、自己の健康と体力について理解し、高めていこうとする児童生徒を育成する。 《新規》部活動の地域展開 *東広島市教育委員会モデル事業	・児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。	・児童会や生徒会活動をはじめ、部活動、クラブ活動、委員会活動等を通じて、児童生徒の主体性と自発性を育てていく。	・児童生徒質問紙(学校、学級、部活動、地域など)のために自分の力を使ったり、人と協力したりして取り組んだりし、養える児童生徒の割合を90%以上にする。 *体育、学校行事、部活動を挙げて目標を設定し、体力向上に取り組むことができた」と答える児童・生徒の割合を85%以上にする。 *児童生徒質問紙「安心・安全に学校生活をおくることができている」と答える児童生徒の割合を90%以上にする。	90%	94.6%	94.1% 小:95.5 中:92.6	105%	4	生徒会執行部を中心に、クラスマッチを開催し、全校生徒の交流の場を設けることができた。また、保健委員会を中心に朝のランニングを企画・運営した。児童会活動では、にこりにホストを企画したり、能登半島地盤に関する視察活動を行うことができた。児童会・生徒会活動が自分たちで企画・運営することで、主体性と自発性ともに、責任感も高まることができた。	小中合同遠足など行うことはできていたが、まだ小学校と中学校の連携が取れていない部分が多々見られた。児童会・生徒会執行部や委員会を中心として、児童・生徒主体で小学校と中学校の連携がとれるよう促していききたい。
			・健康について考えるとともに、自己の体力の向上に主体的に取り組んでいく児童生徒を育成する。	・児童生徒自らが目標を立てて健やかな体づくりに取り組んでいく。 *小中合同行事の設定など	・体育、学校行事、部活動を行う際に目標を設定し、「体力向上に取り組むことができた」と答える児童・生徒の割合を85%以上にする。	85%	92.7%	90.0% 小:90.8 中:89.1	109%	4	小学校では、週3回30分間をわけて取り組み、ロードレース大会前には3分間走に切り替え持久力アップを図った。 中学校では、全校で、長期休みの体力を高める運動の学習の中で地域を走る活動を取り入れた。また、教職員の朝のランニングは、部活動で声を掛け合い、参加者が日々増えていった。長期休暇明けのズームアップでは、生活習慣の見直しを行い、健康的な生活を営めるよう見直しを立てることができた。	小学校では年間通して持久力アップの取組をしていく。また、体幹を鍛えることで体がより動きやすくなるように、体育の時間だけでなく、家庭学習に取り入れるなど家庭との連携を図っていききたい。小学校のバス通学や部活の希望制など、運動をする機会が減っており、体力の低下が著しい。生徒が自ら意識して健康的な活動ができるよう取組む機会を増やしていく。
			・児童生徒が安全で安心できる教育環境を整える。 *おうちやまルーム開設(不登校児童生徒対策)	・生徒指導の3機能を活用した指導を充実させ、関わり合う生徒指導を行う。また、スクールカウンセラーや心のサポーターと連携を図ったり、SSR、相談室を運営したりしていく。	・児童生徒質問紙「安心・安全に学校生活をおくることができている」と答える児童生徒の割合を90%以上にする。	90%	96.5%	93.2% 小:94.4 中:93.5	107%	4	スクールカウンセラーや心のサポーターと常時連携を図るとして、生徒理解を進めることができた。また、「心の授業」をスクールカウンセラーと連携指導を行い、安心して学校生活を送れるよう取り組んだ。SSRについて、利用する生徒がより安心に学校生活を送ることができるよう教室環境を工夫していった。	9月以降で特に不登校傾向の生徒が増えている。不登校の未然防止として、生徒指導の3機能を意識した活動とSSRの活用について、教職員全体で取り組んでいく。
			・地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティスクールの体制をもとに、地域連携を推進する。	・コミュニティルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施していく。	100%	50%	100%	100%	3	今年度地域人材との連携を取りながら、各学年様々な取組を実施することができた。今後、コミュニティスクール推進員と地域学校協働活動推進員との連携を密にしていく。	コミュニティスクールとしての組織づくりを具体的に進めていく。
信頼される学校	3	・学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。	・学校の取組や児童生徒の躍動的・活動的な様子を広く発信する。	・月1回、学校だよりを発行し、学校HPも随時更新する。	100%	100%	100%	100%	3	月1回の学校だよりやHP更新など活動の様子が伝わるよう定期的に行うことができた。	定期的に発信していくとともに、情報発信の仕方の工夫をしていききたい。	
			・小中一貫校としての校務運営組織の見直しと精選を図っていく。 ・地域の協力的体制ネットワークの構築	・入退校記録をとって、月1回学校衛生委員会を開いて傾向分析を行う。	90%	46%	50%	56%	2	月1回学校衛生委員会を実施したり研修を行った中で、前期よりも超過勤務時間(月平均)が小学校33時間、中学校53時間と減った。一方で、専任職員を定めるなど働き方を意識する姿が見られるが、諸問題への対応に追われているのが現状である。	コミュニティスクールとしての機能を果たさせる組織づくりとともに、今後も学校の教育活動へのご協力をお願いしたい。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...101%以上
2...99~80%達成

3...100%達成
1...79%以下

■学校関係者評価
A...とても適切である
C...あまり適切でない
(N...判定できない)

B...概ね適切である
D...全く適切でない